

ほ場整備の効果

大型機械による大規模営農

農村地域の継続的発展
～豊かな農地を未来へ！！～



- 目的
 - 大区画化と区画形状の改善
 - 乾田化(汎用化農地の造成)

- 効果
 - I 大型機械化による効率的な農業環境
 - II 多様な高付加価値農作物栽培の実現
 - III 担い手、法人等への農地集積

ほ場整備前の課題

- 機械化による省力化が不可能
- 湿田における水稻単作経営
- 虫食いの耕作放棄地拡大
- 離農・耕作放棄地による農村の衰退

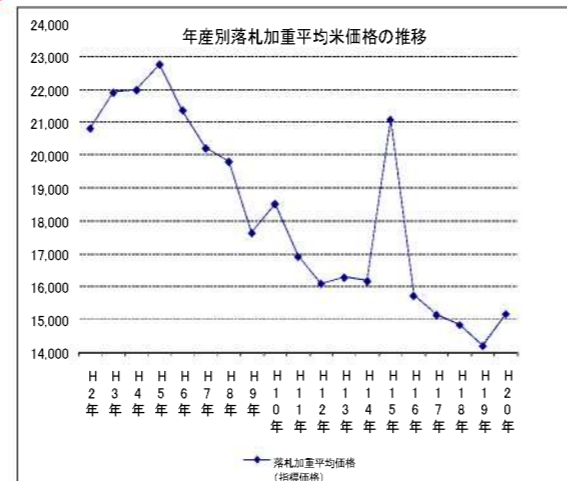
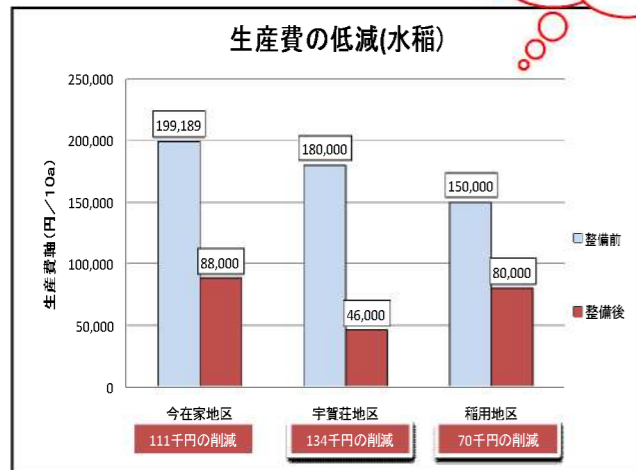
効果の具体的事例

I 大区画化は生産費を低減させ米価の下落に対応

生産費の低減額
70千円～134千円/10a

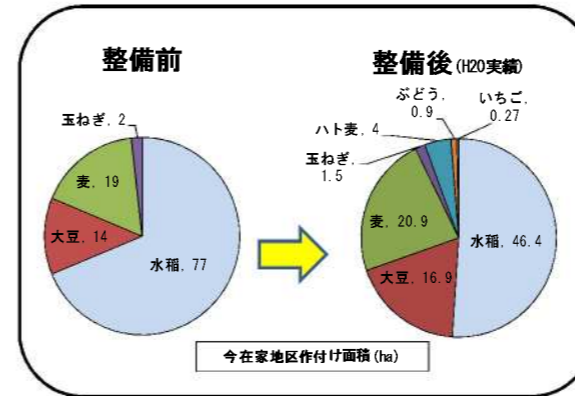
64千円の米価下落を
生産費の低減でカバー

米価の下落額(H5からH20年産)
64千円/10a



II-1 暗渠排水・パイプライン等の整備による『農地のポテンシャルの増嵩』

●生産作物の多様化 → 高付加価値型農業の展開



●高収益作物の導入が可能

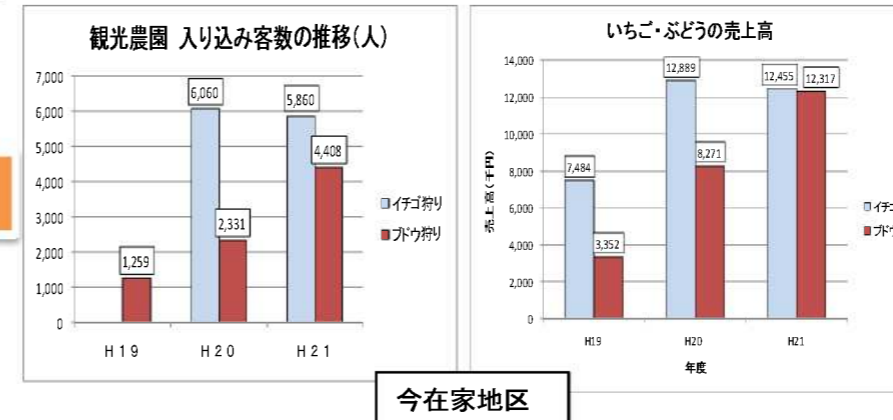
	水稻	青ねぎ	ブロッコリー	イチゴ	ブドウ
131	3,667	287	5,334	1,655	

農業経営指導指針より

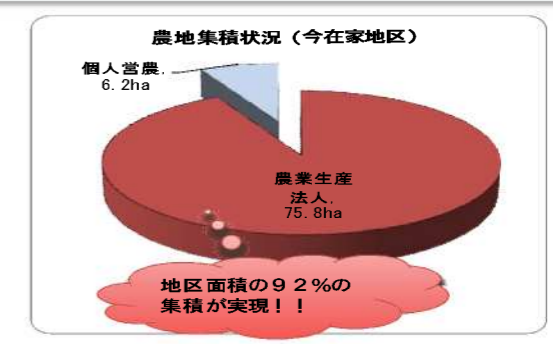
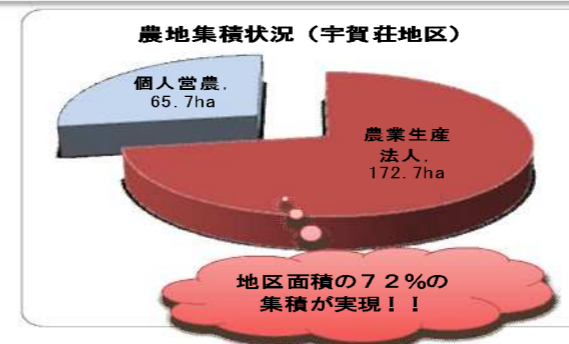
注目事例

旧平田市ブロッコリー: 約160百万円の販売額
旧出雲市青ネギ: 100百万円の販売額
斐川町玉ねぎ: 100百万円の販売額

II-2 都市住民との交流による経営の多角化



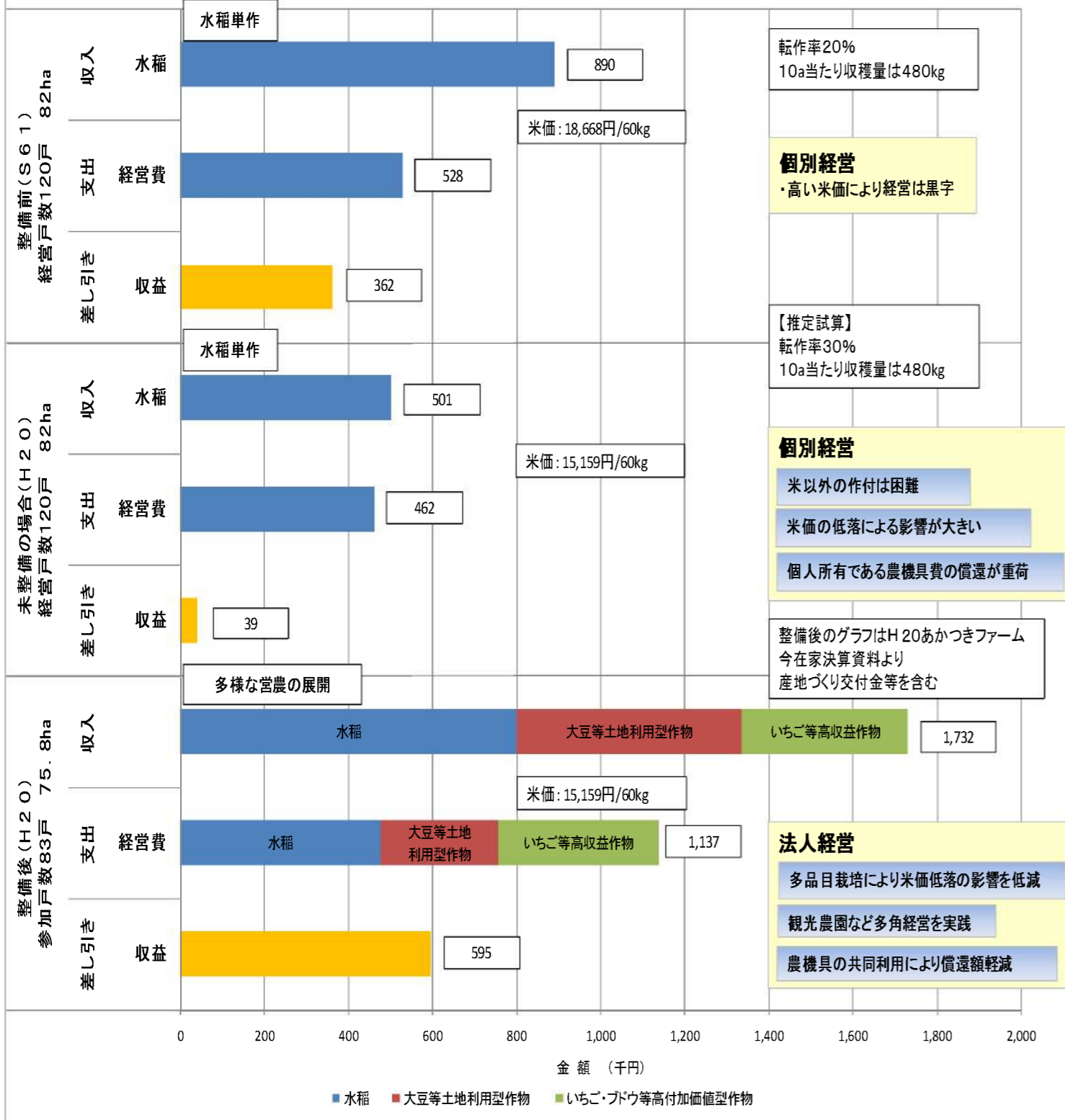
III ほ場整備を契機とした法人への農地集積が顕著となった地区



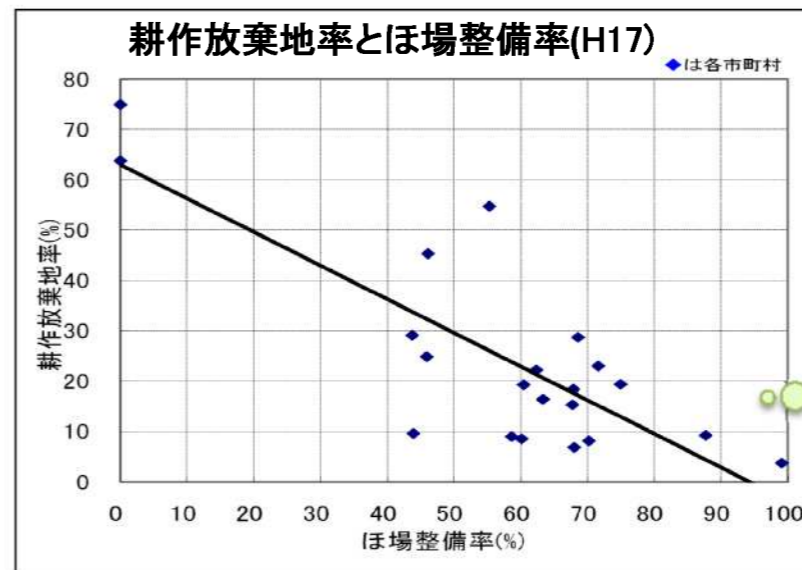
ほ場整備に伴う農家経営の変化

— 今在家地区をモデルとして —
1戸当り農家の収支

整備前・未整備のグラフは、農業経営指導指針に示された、数値をもとに算出。なお、経営費に、自家労賃は含まれない。
収入：粗収益×作付面積
支出：経営費合計×作付面積
収益：収入－支出



ほ場整備率と耕作放棄地の関係



ほ場整備を行うことによって、
営農の省力化が図られ、耕作
放棄地の発生が防止される。

ほ場整備率が高い市町村は
耕作放棄率も低い！！

農村風景の変化



営農加工部による製造・販売
(今在家地区)



チューリップ祭り
(今在家地区)



田植え体験(宇賀荘祭り)
(宇賀荘地区)

高付加価値型農業の実践



平成16年販売額1億円突破
(出雲青ネギ)



雇用創出
余剰労働力の
有効活用

